

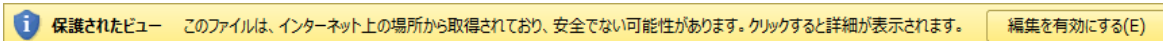
資料 1 : Excel マクロの設定変更方法

以下に記載する内容は、Excel 2016 におけるマクロの設定変更手順となります。

なお、マクロ・ActiveX コントロールの設定を正しく実施すると、ツール起動時に以下のような警告メッセージが表示される場合があります。



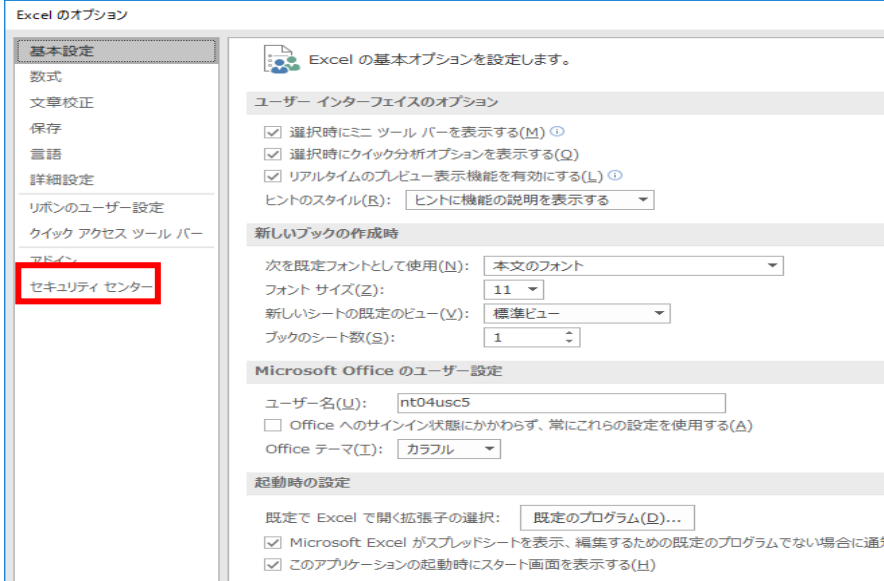
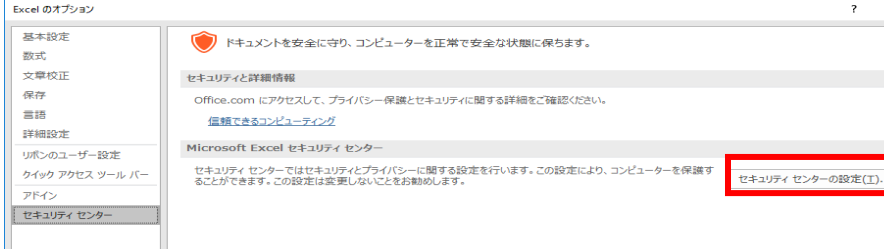
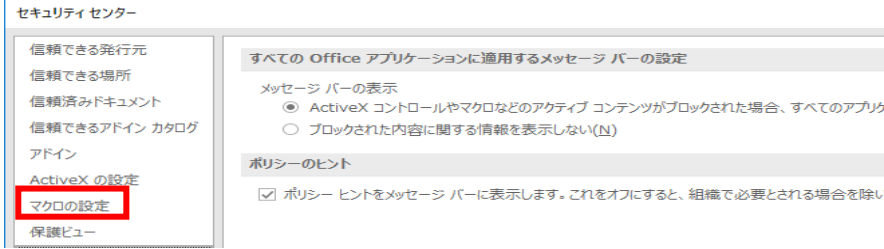
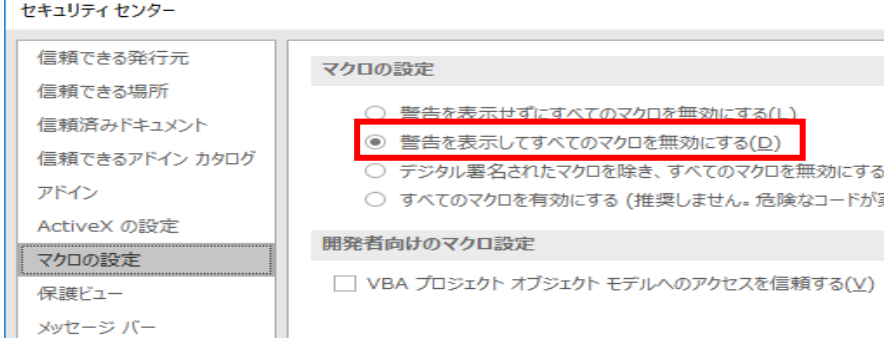
また、インターネット上からダウンロードして取得した場合も以下のような警告メッセージが表示される場合があります。



上の警告メッセージが表示された状態では機能が無効化されておりますので、画面指示に従い、有効にする操作を実施してからツールを使用してください。

(1) 設定変更手順

項番	手順	画面
1	Excel を起動する	
2	「ファイル」を選択する	
3	「オプション」を選択する。	

項番	手順	画面
4	「セキュリティセンター」を選択する。	 <p>Excel のオプション</p> <p>基本設定</p> <p>数式</p> <p>文章校正</p> <p>保存</p> <p>言語</p> <p>詳細設定</p> <p>リボンのユーザー設定</p> <p>クイック アクセス ツール バー</p> <p>アドイン</p> <p>セキュリティセンター</p> <p>Excel の基本オプションを設定します。</p> <p>ユーザー インターフェイスのオプション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 選択時にミニ ツール バーを表示する(M) ①</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 選択時にクイック分析オプションを表示する(Q)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リアルタイムのプレビュー表示機能を有効にする(L) ①</p> <p>ヒントのスタイル(B): <input type="text" value="ヒントに機能の説明を表示する"/></p> <p>新しいブックの作成時</p> <p>次を既定フォントとして使用(N): <input type="text" value="本文のフォント"/></p> <p>フォント サイズ(Z): <input type="text" value="11"/></p> <p>新しいシートの既定のビュー(V): <input type="text" value="標準ビュー"/></p> <p>ブックのシート数(S): <input type="text" value="1"/></p> <p>Microsoft Office のユーザー設定</p> <p>ユーザー名(U): <input type="text" value="nt04usc5"/></p> <p><input type="checkbox"/> Office へのサインイン状態にかかわらず、常にこれらの設定を使用する(A)</p> <p>Office テーマ(T): <input type="text" value="カラフル"/></p> <p>起動時の設定</p> <p>既定で Excel で開く拡張子の選択: <input type="text" value="既定のプログラム(D)..."/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Microsoft Excel がスプレッドシートを表示、編集するための既定のプログラムでない場合に通知する(I)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> このアプリケーションの起動時にスタート画面を表示する(H)</p>
5	「セキュリティセンターの設定」ボタンをクリックする。	 <p>Excel のオプション</p> <p>ドキュメントを安全に守り、コンピューターを正常で安全な状態に保ちます。</p> <p>セキュリティと詳細情報</p> <p>Office.com にアクセスして、プライバシー保護とセキュリティに関する詳細をご確認ください。</p> <p>信頼できるコンピューティング</p> <p>Microsoft Excel セキュリティセンター</p> <p>セキュリティセンターではセキュリティプライバシーに関する設定を行います。この設定により、コンピューターを保護することができます。この設定は変更しないことをお勧めします。</p> <p>セキュリティセンターの設定(I)...</p>
6	「マクロの設定」を選択する	 <p>セキュリティセンター</p> <p>信頼できる発行元</p> <p>信頼できる場所</p> <p>信頼済みドキュメント</p> <p>信頼できるアドイン カタログ</p> <p>アドイン</p> <p>ActiveX の設定</p> <p>マクロの設定</p> <p>保護ビュー</p> <p>すべての Office アプリケーションに適用するメッセージ バーの設定</p> <p>メッセージ バーの表示</p> <p><input checked="" type="radio"/> ActiveX コントロールやマクロなどのアクティブ コンテンツがブロックされた場合、すべてのアプリケーションにメッセージ</p> <p><input type="radio"/> ブロックされた内容に関する情報を表示しない(N)</p> <p>ポリシーのヒント</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ポリシー ヒントをメッセージ バーに表示します。これをオフにすると、組織で必要とされる場合を除いて、ポリシー ヒントは</p>
7	「警告を表示してすべてのマクロを無効にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックする。	 <p>セキュリティセンター</p> <p>信頼できる発行元</p> <p>信頼できる場所</p> <p>信頼済みドキュメント</p> <p>信頼できるアドイン カタログ</p> <p>アドイン</p> <p>ActiveX の設定</p> <p>マクロの設定</p> <p>保護ビュー</p> <p>メッセージ バー</p> <p>マクロの設定</p> <p><input type="radio"/> 警告を表示せずにすべてのマクロを無効にする(L)</p> <p><input checked="" type="radio"/> 警告を表示してすべてのマクロを無効にする(D)</p> <p><input type="radio"/> デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする(S)</p> <p><input type="radio"/> すべてのマクロを有効にする (推奨しません。危険なコードが実行される可能)</p> <p>開発者向けのマクロ設定</p> <p><input type="checkbox"/> VBA プロジェクト オブジェクト モデルへのアクセスを信頼する(V)</p>
8	Excel を閉じる	<p>開いている全てのエクセルファイルを閉じる。</p> <p>※全てのエクセルファイルを閉じることで変更した設定内容が有効になります。</p>

上記手順実施後、「別紙2：ActiveXコントロールの設定変更方法」を実施した後、「振込依頼書作成ツール」を起動してください。

以上